

第 74 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日時：令和 3 年 9 月 24 日（金）16 時 30 分～18 時 05 分

会場：オンライン開催（zoom） URL は後日配信

テーマ：災害伝承の可能性を探る①

16:30～16:40 司会・進行より Web 開催上の留意点の説明と趣旨説明

Web 開催上の留意点についてご説明した後に、開催趣旨について簡単に紹介します。

16:40～17:50 報告（各 35 分）

1. 新たな震災遺構の地平を拓く

3.11 から 10 年という時間の経過に伴い、被災を経験した人びとが自ら「おらほの震災遺構」と位置付けるモノがある。それは、樹木や島など、時間の経過によって被害の痕跡が回復していく自然物である。彼らは、自然物を擬人化し、自身の生に置き換え、震災後の新たな日常を構築していく。自然物を震災遺構と位置付けることは、外部者に積極的に震災を語ろうとするコミュニケーションツールでもあった。当事例から、被災地から発信する、日常に織り込まれた災害伝承とはなにか、明らかにする。

話題提供者：坂口奈央 氏（国立民族学博物館 JSPS 研究員）

2. 災害とともに生きる文化の醸成のために

我が国には、自然の恵みを受けて、自然現象の発生を前提とする生活様式が各地に存在する。そこには、人間と自然を「分かち」のではなく、「共生」するという考え方が根底にある。3.11 震災の被災地のなかにも、これに関連する共生や災害文化に重きをおいた復興のビジョンも存在する。発表者は、自然とそのリスクと共生する態度を定量化するための新たな尺度「災害共生文化態度尺度」の開発を試みている。本発表では、防災教育の事例を通じた尺度の開発経過やその評価結果について報告する。

話題提供者：佐藤翔輔 准教授（防災実践推進部門 防災社会推進分野）

17:50～18:00 質疑／総合討論（10 分）

18:00～18:05 閉会・事務連絡等

司会・進行：橋本雅和（災害評価・低減研究部門 災害ジオインフォマティクス研究分野）